

行政事業レビューシート (文部科学省)

予算事業名	橋渡し研究支援推進プログラム	事業開始年度	平成19年度	作成責任者		
担当部局庁	研究振興局	担当課室	研究振興戦略官付	研究振興戦略官	渡辺 正実	
会計区分	一般会計	上位政策	ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—	関係する計画、通知等	第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定) 健康研究推進戦略(平成21年7月健康研究推進会議決定)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	医療としての実用化が見込まれる有望な基礎研究の成果を有している大学等に、開発戦略策定や薬事法に定める基準を目指した試験物の製造等をはじめとする「橋渡し研究」の支援を行う機関を拠点的に整備することにより、研究の成果を着実に国民・患者のための医療として定着させることを目指す。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	全国7か所に設置した橋渡し研究支援拠点において、研究開発支援に必要な生物統計家・知財専門家等の人材の確保・登用を進め、OJTによる育成を行い支援能力の蓄積と向上を図るとともに、薬事法に定める基準に準拠したレベルで、細胞調製設備(CPC)等の試験物(※)製造設備を整備する。 また、平成21年度には、全国から特に優れた橋渡し研究を公募し、これらの研究に対して研究費を措置している。 (※)薬剤や細胞などの候補物質。					
実施状況	<p>人材については、目標の66%の人材の確保・登用・育成を完了(H21時点22人/拠点→H23目標33人/拠点)。 設備については、平成21年度にCPC等の整備が完了し、具体的な臨床研究用の試験物の製造段階に至っている。 各拠点約10件の研究を支援しているが、医師主導治験へ移行した研究課題3件、企業へのライセンスアウト10件。各拠点で平成23年度末までに、治験や先進医療・高度医療に移行する可能性が高い研究課題を2件以上支援しており、順調に進捗している。 平成21年8月に、科学技術・学術審議会の下に設置されたライフサイエンス委員会において中間評価を行い「シーズを発掘し、動物試験から臨床試験へと連続的に複数のシーズが流れていくための基盤はほぼ整備されつつあり、プログラム開始時点における各拠点での橋渡し研究支援に関する認識、人材・設備の整備状況に比べると格段の進歩が見られる」との評価を得た。</p>					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	1,500	1,750	3,586	2,398	3,000
	執行額	1,533※	1,750	3,567		
	執行率	102.2%	100.0%	99.5%		
	総事業費(執行ベース)	1,533	1,750	3,567		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	○毎年度現地における額の確定作業において実績報告書等の確認を行うとともに、必要に応じて状況調査を行うことにより、支出先・用途を具体的に把握。 ○PD/POの指導の下、整備した拠点機能の永続化・自立化(人材の安定雇用、施設の維持発展)について検討している。拠点の機能別に、具体的な経費と収入(アウトカム)の将来見込みについてデータを整理している。				
	見直しの余地	○拠点整備が完了後、各拠点が自立して拠点運営を行い、その拠点機能を維持・発展していくことができるよう、各拠点における自立的運営に向けた取組を促進すべき。 ○我が国全体の橋渡し研究を推進するため、拠点を構成する機関以外の大学・研究機関からのシーズの受け入れに積極的に取り組み、各拠点のオープンアクセス化を促進すべき。 ○本事業の政策効果を更に促進するため、他事業との連携を含め、より効果的な実施方法について検討すべき。				
予算監視・効率化 チームの所見	<p>1. 事業評価の観点:この事業は、医療としての実用化が見込まれる成果を有している大学等に、薬事法に適合した試験物の製造等の「橋渡し研究」の支援を行う拠点を整備する競争的資金である。</p> <p>2. 所見:本事業では、「橋渡し研究」の支援拠点の形成のみならず、同拠点の支援機能を実証・確認するための「橋渡し研究」課題へも国費を投じているが、後者については関係投資機関との戦略的なマッチング体制を構築しつつ、厳格な評価を実施して国費を投じる研究課題を真に実用化が見込まれるものみに重点化するなど、事業の効率化を一層進めるべきである。また、支援拠点が事業終了後も自立的に活動を行えるよう、補助事業に切り替えるべきである。さらに、「平成23年度科学・技術重要施策アクション・プラン」に沿って資金の使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化を進めるなど、研究者にとって使いやすく、かつ、国費が有効に使われるような事業にしていくべきである。</p>					
補記	※他の予算を流用している。					

文部科学省
3,567百万円

諸謝金 0.7百万円
職員旅費 0.5百万円
委員等旅費 2.0百万円
庁費 0.7百万円

を含む

橋渡し研究支援拠点・橋渡し研究課題を審査・選定し、マネジメントを実施

【公募・委託】

A:橋渡し研究支援
:2,836百万円
大学等(全7機関)

橋渡し研究の支援

【公募・委託】

B:橋渡し研究課題
:728百万円
大学等(全27機関)

橋渡し研究の実施

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

A. (財)先端医療振興財団					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品購入費	データセンター備品、CPC備品	278			
間接経費		173			
人件費	生物統計家など橋渡し専門職の雇用	139			
借損料	データマネジメントシステムライセンス等	66			
その他	拠点調査旅費、試薬品等	94			
計		750	計		0
B. 東北大学					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品購入費	試作及び評価測定用備品	45			
間接経費		31			
消耗品費	実験動物、試薬	18			
試作費	胎児心電図試作費用	17			
雑役務費	データマネジメント外注費等	14			
人件費	研究補助員の雇用	9			
その他	国内旅費、会議費等	2			
計		135	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

A: 橋渡し研究支援

	支出先	支出額(百万円)
1	財団法人先端医療振興財団	750
2	国立大学法人九州大学	500
3	国立大学法人東北大学	328
4	国立大学法人京都大学	317
5	札幌医科大学他	315
6	国立大学法人大阪大学	313
7	国立大学法人東京大学	312
合計		2,836

※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計は一致しない。

「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

B: 橋渡し研究課題

	支出先	支出額(百万円)
1	国立大学法人東北大学	135
2	国立大学法人京都大学	73
3	国立大学法人九州大学	70
4	国立大学法人東京医科歯科大学	69
5	国立大学法人大阪大学	63
6	札幌医科大学	62
7	京都府立医科大学	51
8	国立大学法人浜松医科大学	43
9	福岡大学	28
10	東京女子医科大学	25
⋮	その他	108
合計		728

※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計は一致しない。